台湾フェスティバル™2021

日台稲門会　ニュースレター10月号（2021年１０月３日発行）

会報担当：橋本紀明／hashimoto.inforia@gmail.com

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター10月号をお届けします。ニュースレターの発行、編集をするようになってから、台湾に関する情報を集めるようになりましたが、今回の新型コロナ発生以降、日本だけでなく世界からも台湾の完璧なコロナ対策に対して驚嘆の声が聞かれるようになりました。政治、経済に関しても、“台湾”の存在感が以前よりはるかに大きくなってきたことと、堂々と自身の台湾観を述べる（日本の）政治家が増えてきたに頼もしさを感じます。これからも台湾の魅力をどんどん発してゆきたいと思いますので、皆様の投稿をお待ちしております。

１．　ご挨拶（会長　三村達）

日台稲門会では毎月皆様に新しいニュースをお届けできればと幹事一同日々日台関連の情報集めに努めており、今回も様々なニュースをお届けいたします。
一方コロナウイルスの感染者数はここに来て大幅に減少しており、9月末をもって緊急事態宣言も解除されるようです。
このまま収束に向かってくれればいいのですが、専門家の意見では必ず、第6波が訪れるとのこと。皆様も気を緩めることなく日々をお過ごしください。

２．　台湾時代の思い出（渡邉義典さん）

■芝山巖　芝山巖学堂　六士先生の墓（その５）

私が雨聲街に住んでいた当時（2004 年～2009 年）の初期のころ、芝山巖内の遊歩道を歩くと、道路わきに緑色のペンキが塗られたボロボロの小屋のような小さな木造の建物がいくつも点在していました。ドアが壊れているものが多く、中を見ることができるのですが、人が一人は入れるくらいの空間で、中には何もありません。
一体これは何なんだろう？と不思議に思っていましたが、2008 年ごろにはこれらの小屋はすべて取り払われていました。

また、芝山巖読書室から東へ下ったところに、崖の上に突き出した半円形の頑丈なコンクリート造りの場所があります。見晴台のようです。ここは一人で体操するのにちょうどよい広さで、いつも誰かが体操をしています。たまに無人の時は私も半円形の先端に行って景色を眺めたりしていました。対面には円山飯店の裏側に続く小高い山の端が見えます。私はてっきり見晴台だと思っていました。

しかし、後日、地元の物知りの人に聞くと、とんでもない思い違いでした。
先ず、遊歩道の脇に点在しているボロボロの小屋は、戒厳令時代は歩哨の詰め所で、当番歩哨が銃を持って 24 時間立哨していたそうです。

そして見晴台だと思っていたコンクリート造りの半円形の張り出しには大砲が据え付けられていたそうです。士林官邸防護のための軍事施設だったそうです。
そういわれてみると士林官邸は目と鼻の先です。

蒋介石総統、蒋経国総統の頃の芝山巖は士林官邸を守る重要な軍事施設だったそうです。言われてみると、円山飯店の裏から極秘のトンネルが掘られていて芝山巖の対面にその出口がある、という噂を思い出して、なるほど！ここが士林官邸守備の重要ポイントだったことが納得できます。

雨聲街のあたりは士林官邸警備の士官や兵の官舎が多かったとのことで、住んでみると静かな街で、戸建ての邸宅がいくつも並んでいるところでした。

私が懇意にしていたタクシーの運将（うんちゃん）に「お前はどうして中国人ばかりのところに住んでいるのか？」と聞かれたことがあります。しかし、私は住んでいて全く違和感を感じなかったのでキョトンとしていました。

３．経済ニュース（劉彦甫　記者）

今月の劉彦甫さん（WTSA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。
（劉記者の記事は、下記サイトを参照）
https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB

■地味に受注急増中!パナソニック「実装機」の正体
5G 需要など取り込み生産台数は高原状態続く世界的に普及が本格化している高速通信規格の 5G。新しい通信規格を活用した機器や ICT 端末の需要が拡大する中、パナソニックでは、それらの生産を支える機械「実装機」を販売。
詳細は、下記サイトをご覧ください。(8/28)

https://toyokeizai.net/articles/-/451092

４．若林正丈早大台湾研究所顧問の「私の台湾研究人生」

2019 年４月より nippon.com でほぼ毎月連載されている若林正丈早大名誉教授、同台湾研究所学術顧問の「私の台湾研究人生」。ご覧になった方は多いと思いますが、９月号（第 20 回目）では、蒋経国氏の後、1989 年総統となった李登輝氏との出会いから国の体制を大きく変えてゆくその過程につい述べています。詳細は下記サイトをご覧ください。

（写真 nippon.com）

https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g01188/?pnum=3

（写真：nippon.com）

５．謝長廷代表、産経新聞「話の肖像画」に連載（9/1～30 産経）

９月の『話の肖像画』は、台北経済文化代表処の謝長廷代表でした。（聞き手は河崎眞澄さん）。震災支援とワクチン供与の善の循環、オリンピックを目指した高校時代、台湾独立運動の弁護士をした関係から政界入りした経緯、李登輝元総統から教わったこと、白冰冰さんの娘さん誘拐殺害事件での犯人へ説得交渉、日本の各都道府県との関係強化などが載っていました。

ワクチン便が飛び立つ時、感謝を示す謝代表（写真左下）（産経 Web）

高校時代、台湾国体の器械体操で（産経 Web）

誘拐暗殺事件犯逮捕時（産経 Web）

６．最近の台湾関連ニュース

■中国、台湾産の釈迦頭やレンブを輸入停止。損害額は年 166 億円。台湾は WTO に提訴へ（9/19 フォーカス台湾,9/22 産経）

砂糖のような甘さの釈迦頭（バンレイシ）と少し酸っぱくサクサクとした歯ごたえのあるレンブ（蓮霧）が中国で輸入禁止となりました。釈迦頭はお店で買って自宅で食べ、レンブはレストランでデザートで食べることが多いですが、日本でも、はやるかもしれません。（下記写真は BOTANICA より）

（釈迦頭）

（レンブ）

■自民党総裁選に立候補した高市早苗氏は 20 日、台湾の蔡英文総統とオンライン会談をし、台湾の TPP 参加を支持。（9/22 産経）

★蔡総統、高市氏とビデオ会談。

自民党総裁選挙は岸田文雄氏の勝利で終わりましたが、選挙期間中の９月 20 日、蔡英文総統は高市早苗氏とビデオ会談し、日本と密接に協力できることを楽しみにしていると語った。蔡総統は、パンデミックの際に 5 回 390 万回ものアストラゼネカワクチンを提供してくれた日本側に感謝を示すとともに、パンデミックの脅威にさらされた我が国（台湾）の安全保障、経済状況、産業サプライチェーンなどの問題について高市氏と意見交換した。高市氏は最近、長年憧れていた蔡総統と会談したいと日本のメディアとのインタビューで話していたが、今回、古屋圭司日華議員懇談会会長のはからいにより実現。双方の合意ののち、リハーサルなしでいきなり実施したが NG はなかった。会談中、高市氏は、台湾と日本の双方の国旗を掲げてくれ、台湾と日本の相互扶助はこの地域の安定と繁栄に非常に重要だと話した。台湾と日本両国の人々がお互いに助けあい、将来も様々な分野で緊密な協力を楽しみにしていますと述べた。（9/21 自由時報電子版訳）

https://www.youtube.com/watch?v=Cww1UxqCKMk

■台湾の TPP 加入申請に際して、蔡英文総統は『TPP のルールを全面的に受け入れる』と表明。中国は断固反対し、さらなる圧力をかけると(9/24 産経)。 オーストラリアは中国の TPP 加入正式に難色(9/18 産経)。米は、台湾の加入の後押し(9/26 産経)。日本の自民党総裁候補４氏と政府は台湾歓迎と表明。(9/25 産経)

■25 日に実施された台湾の中国国民党主席選で元主席の朱立倫氏が当選。過激親中派の張亜中氏は２位、現主席の江啓臣は３位。(9/26 産経)

■日台与党　対中国で連携
自民党の佐藤正久外交部会長と大塚拓国国防部会長は、台湾与党の民主進歩党の外交、防衛担当立法委員とオンライン会談。外交・安全保障分野での緊密連携を確認。(8/28 産経)

■与那国島・台湾間に中国軍艦艇
最近、与那国島・台湾間に 24 時間中国軍艦艇が監視。ただし、日本は、台湾側の動きをけん制する目的と考えているが、台湾は、日本の海自艦艇が同海域を頻繁に航行するようになったためと分析し、日台で認識の齟齬（8/31 産経）

■中国、総統選後に軍事圧力　台湾「武力統一」警戒
台湾国防部は報告書で、中国は GPS「北斗」で台湾軍の動向を把握、サイバー攻撃と同様に台湾世論操作をし、①2035 年に沖縄、台湾、フィリピンを結ぶ第１列島線内の制海権確立、伊豆やグアムを第２列島線の西海域の外国軍を攻撃する能力を確保、②2027 年に第１列島線内へのミサイル攻撃能力を確立することを目標にしていると報告。(9/2 産経)

■アフガンの経験、中国封じ込めに生かせ。E・ルドワック氏（米歴史学者）
（台湾海峡緊張に対して）台湾は現時点で防衛に真剣とは言い難い。台湾に必要なのは、F16 や F35 ではなく、中国の上陸侵攻に対抗するための対艦・対空ミサイルとそれを運用する人員だ。6 カ月程度の一般市民軍事訓練を導入して人々が防衛兵器を携え、中国の侵攻部隊を迎え撃つようにすべき。台湾が 2360 万人の人口を兵力に仕立てれば、中国が台湾を制圧することは不可能となる。またあらゆる手段で中国の周辺国と連携し、中国の圧力に対抗し、それを押し返してゆかねばならない。(9/3 産経)

■中国王毅外相が訪韓へ、「対中包囲網」牽制
王毅国務委員兼外相が 10～15 日にベトナム、カンボジア、シンガポール、韓国を歴訪する。韓国では鄭義溶外相と会談。韓国を引き付けて米国を牽制する狙い。(9/8 産経)

■岸信夫防衛相、「わが国にとって台湾は目と鼻の先にある。台湾が起こることはわが国としても他人事ではない」と語る。(9/8 毎日)

■中国軍の実力、台湾で物議
台湾国防部が出した中国軍に関する年次報告書が、昨年度版よりも偵察機やドローンを使って上空から兵力を投入する能力を向上させているなどとして物議を醸していると。中国の武力攻撃の根拠となる７項目のうち、①台湾が独立に向けて行動、②中国との平和統一交渉を遅らせる、③外国勢力が台湾に介入するの３条件はすでに満たしているため、いつ攻められてもおかしくない状態だという箇所も。(9/8 産経)

■中国「軍事行動」のシナリオ
元自衛艦司令官の香田洋二氏は、中国の台湾への軍事行動は、まず経済的利益で世論を親中にしている。親中的世論が醸成されたところで、人民解放軍が出ていけば統一反対派の制圧も容易という発想が、透けて見えていると。(9/13 産経)

■米政権、『台湾代表処』の表記を検討（9/14 産経）

■台湾、中正紀念堂の蒋介石像存続をめぐり与野党も世論も対立（9/14 産経）

■台湾にワクチン 50 万回分追加供与決定。台湾にはこれまで 340 万回分供与。(今回で合計 390 万回となる）(9/15 産経)

■岸防衛相、台湾情勢、ひとごとでない
（日本）国民の命、平和な暮らしを守り抜くためには従来とは根本的に異なるスピードで防衛力を強化していく必要がある。(9/15 毎日)

■ＥＵ、台湾との関係強化
台湾海峡での緊張の高まりは、ＥＵは「欧州の安全保障に直接的な影響をもつ」と明記。貿易や投資、データ保護の分野で、台湾と関係を深める意欲を示した。(9/17 産経)

７．台湾映画紹介（東京国際映画祭ホームページより引用）

■「よみがえる台湾語映画の世界」

日本映像学会アジア映画研究会と台北駐日経済文化代表処台湾文化センターの共催による台湾映画を『チマキ売り』を観に行ってきました。試写競争率は５倍程度のようですが、10 月 15 日～17 日分（抽選）はまだ間に合います。
1960 年代に人気を博した７本の台湾語映画（台語片）がデジタル復元で現代によみがえった（日本語字幕付き）。詳細は https://2021.tiff-jp.net/news/ja/?p=56666

（東京国際映画祭パンフレットより）

◎記念上映と国際シンポジウム

10 月 2 日(土)　アテネ・フランセ文化センター
14:00～15:30　記念上映『チマキ売り』
15:45～17:15 国際シンポジウム
「よみがえる台湾語映画の世界」

1955 年から 81 年までに台湾語だけの映画が 1000 本以上作られた。それは、英雄ではなく、庶民に焦点をあてたものであった。1969 年の『チマキ売り』もその一つ。主人公チービンは、陰謀により妻と別れ、子供３人と暮らし始めたが、事故でまともに働けなくなり、幼い妹シウツーを手放したが、姉のシウグァンと弟のホンブンは必死に懇願して取り戻す。二人は妹のミルク代を稼ぐべく、姉は夜、チマキ売り、弟は靴磨きと・・。

チービンも、こっそりとチマキ売りを始めたが、雨ふる夜の街で、シウグァンを見かける。自身が子供たちを養えない情けなさと子供へのすまなさで泣き崩れる。その後、陰謀を働いた黒道は捕まり、チービンは妻と再会。家族５人で喜び合う。貧しさの中でも必死に生きようとする人々がいきいきと映し出されていた。

◎特集上映　2021 年 10 月 15 日(金)～17 日(日)　国立映画アーカイブ 小ホール

10/15(金)
　12:00 『モーレツ花嫁 気弱な婿さん』(三八新娘憨子婿) 1967 年／101 分
　16:00 『地獄から来た花嫁』(地獄新娘) 1965 年／117 分

10/16(土)
　12:00 『夫の秘密』(丈夫的秘密) 1960 年／100 分
　16:00 『五月十三日 悲しき夜』(五月十三傷心夜) 1965 年／97 分
全作品 日本語字幕付き　インターネットで申し込み（締め切り１０月５日）
https://taiwan.e-mu.biz

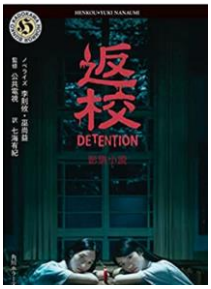
７．注目の台湾関連新刊本紹介（既刊、近刊）

■『台北プライベートアイ』（紀蔚然（きうつぜん））（文芸春秋）（5 月 13 日刊）（税込 1,980 円）

「私家探偵」(原題,2011 年)の日本語版。連続殺人事件に巻き込まれた素人探偵が解決に乗り出す物語で、台北の街並みやユーモアも取り入れている。台湾生まれのハードボイルド作品として日本に初上陸。（産経より）
誠品書店(日本橋)でも売っています。

■『返校』（李則攸、巫尚益）（角川ホラー文庫）（7 月 16 日刊）（税込 770 円）

先月、紹介した台湾映画『返校』の小説の日本語版。訳が少し分かりにくいとの読者感想あり。（アマゾン）



■台湾語大辞典　全２巻揃［復刻版］
日本語世代の方になにげなく「台湾語を学びたい」と言ったら、出張中、毎日教わることになった。その後、戦前台湾総統府が発行した台湾語大辞典が日本の本屋で売られていたので、お土産（お礼）に買って行った。
復刻版の新品だったが、いくらだったろうか。今は古本屋で２万円。新古品なら３万円くらい。ひらがなとカタカナで発音の区別がうまくなされていた。（写真：林書店より）

８．日本の中の台湾

■誠品生活日本橋

1990 年代非常にセンスのいい誠品書店という店が台北にできたことを覚えている方は多いと思いますが、誠品生活として日本にも出店しています。台湾商品だけでなく、世界で売れそうと思われる日本製品も扱っています。日本店（COREDO 室町テラス２F）は 2019 年９月にオープン。エスカレータで２階に着いた途端、懐かしい誠品書店の匂いがしていました。店内には、中文と日文の台湾関連本が
たくさんあり、喫茶もあります。台湾生活が懐かしくなったら、訪問してみてください。

■台湾フェスティバル™TOKYO2021

行かれた方も多いと思いますが、毎年 25 万人以上を集める台湾食文化紹介の台湾フェスティバル™。昨年は新型コロナのため中止となったが、今年は、厳重な防疫対策の下で９月 17 日から 20 日まで上野公園で開催された。（表紙写真と下記写真）（悪天候で 18 日は中止）

９．注目事項（新 PCR 検査）

CDC（米国疾病対策予防センター）は、インフルエンザ時期を前に従来の新型コロナ専用だけの PCR 検査から、インフルエンザも同時に検査できる新 PCR 検査をすると７月 21 日に発表しました。一回でコロナもインフルも検査できるため、効率が上がるとみられています。今後、日本でも取り入れられることが予想されます。詳細は、下記サイトをご覧ください。

https://www-fda-gov.translate.goog/medical-devices/coronavirus-disease-2019-covid-19-emergency-use-authorizations-medical-devices/in-vitro-diagnostics-euas-molecular-diagnostic-tests-sars-cov-2?_x_tr_sl=auto&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=ajax,se,elem

１０．訃報

■西脇久夫さん（ボニージャックス）逝去、８月 30 日。
10 年ほど前に、日台稲門会のパーテイによく出席されていたボニージャックスリーダーの西脇久夫さん（早稲田グリークラブ出身）が逝去されました。西脇さんに誘われて演奏会に行かれた方もおられると思います。ご冥福をお祈りいたします。(9/3 毎日)

写真：毎日新聞

１１．行事（講演会など）

■オンライン対談
現在、当会岩永名誉会長と小椋副幹事長のオンライン対談を企画しています。三村会長司会。詳細が決まりましたらまた連絡いたします。

■講演会
現在検討していますが、確定し次第、連絡いたします。

■ＷＴＳＡ等留学生との交流会
一昨年実施し、好評を博しましたＷＴＳＡ等留学生との交流会につきましては、現時点で確定しておりません（昨年はコロナで中止)。ご了解ください。

１２．台湾時代の思い出

■カラオケと台湾語
駐在時、台北稲門会の会員からよく台湾語の歌を教えてもらった。当然、練習場所は林森北路（九条)。キリンビールの会員の方からは、会社がコマーシャルで使った『流浪到淡水』(唄：金門王、李炳輝）を。歌詞の内容が分かりやすいため、カラオケでよく歌った。特に最後の『有縁無縁大家來作伙、燒酒喝一杯乎乾啦乎乾啦（縁があろうとなかろうとみんな来い！焼酎飲んで乾杯だ)』の箇所が好きだった。「乎乾啦（ホッタラ、乾杯)」は、宴会の締めの定番となった。ＪＴの会員からは、『相思雨』を教えてもらった。最後の『煙一支又一支（タバコの煙が延々と)』が良かった。台湾語といっても、最初は、ボラ、パイセ、ボアキン、チャップン、ミナツァイ、ツァンヤ、ヘレ、リシ～くらいしか分からなかったが、数年すると相手が言っていることが何となくわかってきた。カラオケのおかげか。(橋本紀明)
流浪到淡水　https://www.youtube.com/watch?v=9plPMDcD4dU
相思雨　https://www.youtube.com/watch?v=hAzeaGMr_ME

■台湾へのお土産は？
日本人は、台湾へのお土産というと『とらや』などの高級羊羹を思い浮かべ、それを買って持って行く人がいると思う。私もそのくちだった。しかし、親しくなると台湾の人の本音が聞けるようになる。曰く、日本の羊羹は甘すぎると。台湾料理でも最後にサービス（デザート）でおしるこが出るじゃないかと思ったが、台湾おしること比べると羊羹では確かに甘すぎる。じゃ、お土産はなにがいいの？と聞くと、干しシイタケと。干しシイタケは太太が喜ぶとか。以後、ほとんどドンコとなった。駐在時代の私個人の場合は、日本から来る友人に、「おみやげは、（違法かも知れないが）生卵パックを頼みます」と言った。今は大丈夫だと思うが、当時、台湾で生卵をたべるというのはちょっと勇気がいった。ちなみに、その後、駐在したUAE（アラブ首長国連邦）では、現地スーパーで売られている生卵の賞味期限は３カ月だった。当然、日本から来る人には、生卵パックをお願いした。日本産生卵を手に入れた日と翌日は、当然、玉子かけご飯だった。美味しかった。輸送は、ハンドキャリーしかないから、割れないように大変だったと思う。（橋本紀明）

編集後記

■謝長廷代表の「話の肖像画」（産経新聞連載）を読んだ。１カ月もの間、台湾社会を震撼させた白冰冰さんの娘さん誘拐殺害事件。遺体を放棄した後、新たな事件を犯しながらまた逃走。当時を知っている方なら、饒舌に尽くしがたい事件の悲惨さを覚えていると思う。しかも、その結末が、犯人の南ア大使館武官宅籠城、家族人質事件。なんとも言えない異常さに恐ろしさを感じた。夜、TVで延々と実況中継もされた。誰が巻き添えになってもおかしくなかった。謝代表が死を覚悟して説得交渉をされたことに敬意を感じました。（橋）